

ペドゲイト：司教が合意年齢を7歳にすべきだと主張

——子供たちはペドファイル聖職者と責任を共有すべきだ

【訳者注】これはどう考えても、正常な人間の言うことではないが、犯罪者は、これを正常な理屈として、押し通そうとしていることに注目すべきである。啞然とするが、啞然とするのは今の世の中にいくらでもある。最近ここで取り上げた事例でいえば、原爆投下は「慈悲の行為だった」という理屈、ビルディング7の倒壊は、ツインタワーからの“飛火”によるものだという説明、サマンサ・パワーの、シリアについての「あんた、そんなウソをついて恥ずかしくないの」という発言。これらすべてに共通するのは、堂々と理不尽を押し通す厚かましきである。この聖職者の言っていることも、ペドフィリアは、相手の子供にも責任があるということである。ヒラリー・クリントンが若くて、弁護士をしていたころ、性犯罪の少女被害者を、相手を誘ったとして非難し、加害者を救ったことがあるらしい。

こうしたことは、すべて別々に起こっているにもかかわらず、その底に共通した、吐き気を催すような、非人間的な「悪」が感じ取れる。サタンは、特定の人格をもって実在している。アレックス・ジョーンズが数日前、全く同じことを言っていた。

Jay Greenberg

May 2, 2017, www.neonnettle.org



ニューヨークのカトリック司教が、ペドファイル聖職者は、7歳以上の子供をレイプしても、責任を問われるべきではない——なぜなら、幼い少年たちは自分自身の行為に対

して“責任がある”(culpable) と考えるからだ、と主張した。

ニューヨーク、シラキュース教区の Robert Cunningham 司教は、聖職者たちが何世紀も昔から、少年に対する性的虐待を非難されてきたのは間違いだと言明し、「7歳になれば、子供たちは自分が何をしているかわかっている、だからそれはレイプではない」と言った。

<http://www.syracusediocese.org/about-us/bishop-robert-j-cunningham/>

カニンガム司教がこのショッキングな言明をしたのは、最近、公表された彼の証言においてであり、ペドファイル聖職者たちによる集団子供虐待に対する、連邦訴訟における証言の中での発言だった。

http://www.thenewcivilrightsmovement.com/uncumbered/new_york_bishop_says_victims_of_predatory_priests_also_committed_a_sin

<http://www.neonnettle.com/tags/pedogate>

Count Current News はこう報じている：——聖職者のペドフィリアのかつて被害者 Charles Bailey は、当時の司教 James Moynihan に、教会は、子供の犠牲者自身が、聖職者による性的虐待に対して、責任の一部があると考えたのかと訊ねた。

「モイニハン司教は、まともに私の顔を見て言った——〈分別年齢は7歳だ。だから少なくとも7歳になっていれば、あなたは自分の行為に対して責任がある。〉これには開いた口がふさがらなかった」とベイリーは言った。

<http://countercurrentnews.com/2017/05/ny-bishop-rape-shames-abuse-victims-boys-are-culpable-for-their-actions-at-7-years-old/>

明らかに、この感じ方は、一人の司教のものではなく、性的加害者の罪を隠ぺいするために、より広く使われる口実のようである。

確かに“分別年齢”は7歳かもしれない。しかしそれは、“レイプされたのはその子供が悪い”という年齢にはならない。

教会の方針によれば、7歳という年齢は、子供が、正しいか間違っているかの違いを理解すべき年齢である。

それはまた、子供の“聖体拝領”が有効とされる年齢でもある。

この教区のために弁明するある人が、この司教を弁護しようと試みて言った——彼の証言

中での言明は、彼が、レイプされたのは子供に責任があると信じていることを意味するものではない、「この証言を、彼の立場を曲げて解釈するのに利用するのは、不公平だ」と言った。

「不公平」という言葉で、この場合、逃げることはできないだろう。

この問題について問い詰められると、彼は、どれくらいの罪が被害者の側にあったのかは、私は知る立場にない、と言った。

「全くない」という単純な答えが、また別の歪んだ現実の解釈になり、それは、聖職者が子供を虐待したとき、少なくとも部分的にはその子が悪かった、ということになった。

「私の言うのはですね、その時の状況は全く分からないわけだから、少年にその気があったのか、何らかの調子を合わせたのかどうか、ということですよ」と、カニンガムは言った。

弁護士は、カニンガムにこう訊ねた——いったいある聖職者が、14 から 15 歳の少年をセックスに引き込もうとするとき、教会の目から見て、その子に責任が生ずるような状況が、想像できますか？

「明らかに、その聖職者のやったことは悪いことでした」と、カニンガムは言った。「あなたは私に、少年に責任が少しでもあったかと訊ねておられる。そしてそれは、私には判断できないのです。」

実は、それは判断できる。

誰でもそれは判断できる。

起こったことは、聖職者たちが、“神のみ使い”という彼らの立場と権力を利用して、子供たちを彼らの歪んだ性の欲望に応じさせた、ということである。

最も控えめに言っても、子供たちは、自分にそんな能力の全くない、大人の決断をするように強制された、ということだ。

この司教と、彼が馬鹿げた理屈を用いて弁護したすべての聖職者たちは、教区民の信頼、特にシラキューズ教区の子供たちの信頼を裏切ったのである。

チャールズ・ベイリーは、一通の請願書を回覧しており、カニングム司教をこの教区の責任者として辞めさせるために、法王フランシスがフィラデルフィアを訪問したときに、提出する計画をしている。 <http://www.addictinginfo.org/2014/07/08/pope-apologizes-to-the-abused-for-sins-of-the-church/>

<https://youtu.be/upW7SHAjSEA>

(大司教 Carlson、犯罪的子供性虐待について語る)